

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第31週 (7/30-8/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	31週	30週	29週	28週
小児科	18	18	18	16
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ	27	27	27	24
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/30-8/5	7/23-7/29	7/16-7/22	7/9-7/15	7/23-7/29
			31週	30週	29週	28週	30週
小児科	RSウイルス感染症	↓	15 0.83	21 1.17	19 1.06	13 0.81	136 1.01
	咽頭結膜熱	↓	14 0.78	23 1.28	12 0.67	11 0.69	157 1.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		30 1.67	42 2.33	33 1.83	44 2.75	265 1.96
	感染性胃腸炎		68 3.78	88 4.89	58 3.22	62 3.88	396 2.93
	水痘		6 0.33	1 0.06	4 0.22	5 0.31	22 0.16
	手足口病		28 1.56	20 1.11	20 1.11	4 0.25	165 1.22
	伝染性紅斑		2 0.11	1 0.06	2 0.11	3 0.19	36 0.27
	突発性発しん		13 0.72	6 0.33	6 0.33	3 0.19	59 0.44
	ヘルパンギーナ	○	79 4.39	75 4.17	61 3.39	34 2.13	484 3.59
	流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.11	3 0.17	4 0.25	17 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00
	流行性角結膜炎	↓	3 0.60	6 1.20	5 1.00	4 0.80	29 0.83
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(20件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	50歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	50歳代	抗体の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	病原体等の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	40歳代	抗体価の有意上昇
レジオネラ症	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出

・第31週は、結核4件(110)、腸管出血性大腸菌感染症1(9)、レジオネラ症2(4)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(19)、百日咳8件(86)、風しん4件(10)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

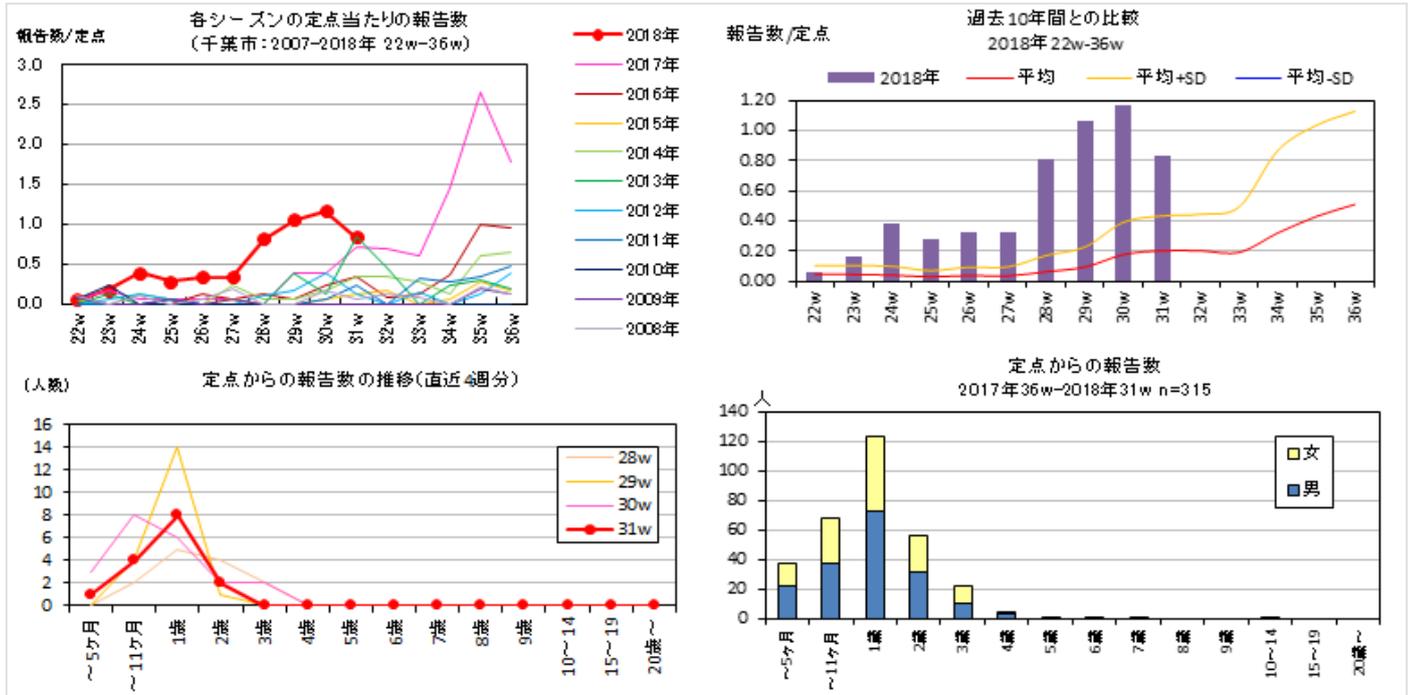
定点当たり報告数 第31週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より減少し0.83となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。
 ＜ヘルパンギーナ＞前週より増加し4.39となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。

トピック

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルは第12週から過去10年の同時期に比べ最多の状態で推移しており、第30週も同様となっています。都道府県別では鹿児島県、福岡県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第31週は前週より減少し、0.83となり、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、美浜区及び緑区(共に1.5/定点)で最多で、両区とも1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第30週までの累積報告数(n=315)によると、性別では男性が56.8%(179名)、女性が43.2%(136名)で、年齢階級別では1歳(39.0%:123名)、6～11か月(21.6%:68名)、2歳(18.1%:57名)の順で多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第30週は、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では長野県、静岡県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第31週は前週より増加し4.39となりました。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。区別の発生状況は稲毛区(9.67/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。その他若葉区(6.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2018年第1週から第31週までの累積報告数(n=321)によると、性別では男性が51.4%(165名)、女性が48.6%(156名)で、年齢階級別では1歳(27.4%:88名)、2歳(26.2%:84名)、3歳(13.1%:42名)の順で多くなっています。

